

令和6年度 学校推薦型選抜 I

(水産学部水産学科)

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
2. 解答時間は90分である。
3. 問題用紙(表紙, 白紙を含む)は5枚, 解答用紙は2枚, 下書き用紙は2枚である。落丁, 乱丁, 印刷の不鮮明なものがあったら申し出ること。
4. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
5. 解答は, 必ず解答用紙の所定の欄に記入すること。
6. 解答は, 解答用紙に横書きし, 鉛筆(シャープペンシルを含む)書きで記入すること。
7. 解答に字数制限がある場合には, 句読点, 単位(例: kg), および数字は1マスとすること。
8. 試験終了後, 解答用紙, 問題用紙, 下書き用紙を回収するので, 持ち帰らないこと。

令和6年度 学校推薦型選抜Ⅰ（水産学部水産学科） 小論文

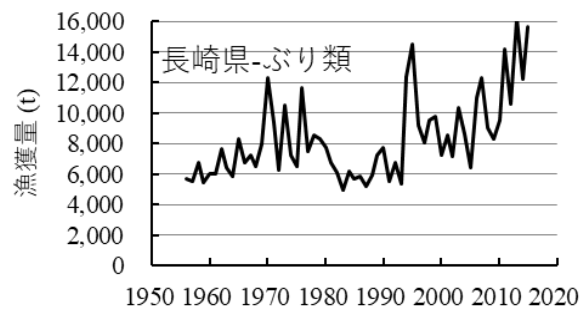
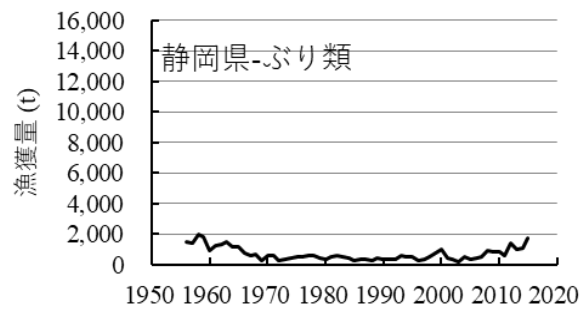
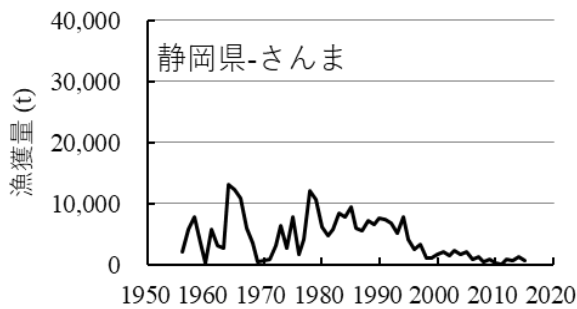
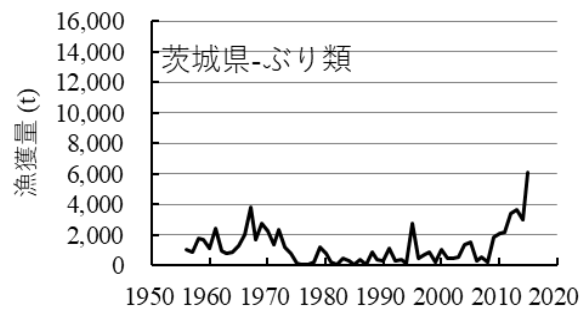
問題

問1. 図1は、北海道、宮城県、茨城県、静岡県、長崎県における、1956年から2015年間のさんまとぶり類の漁獲量の推移を示したグラフである。なお、ここでいう漁獲量とは、漁獲された天然の水産物の量のことであり、養殖された水産物は含まない。

- 1) さんまの主要漁場がこの期間にどのように変遷したのかについて、図に基づいて240字以内で説明しなさい。なお、その変遷の理由については推察する必要はない。
- 2) ぶり類の主要漁場がこの期間にどのように変遷したのかについて、図に基づいて240字以内で説明しなさい。なお、その変遷の理由については推察する必要はない。

問2. 図2は、日本全国におけるのり類、わかめ類、こんぶ類の養殖生産量の推移を示したグラフである。これら海藻類の養殖生産量は、養殖技術の開発と高度化により急激に増加したが、近年では減少傾向にある。この減少の原因の一つとして、地球温暖化による海水温の上昇が考えられる。そこで、近年の海藻類の養殖生産量の減少に対する海水温上昇の影響について検討したい。そのためには、どのような実験・解析を行えばよいか、140字以内で説明しなさい。

問3. 今後深刻化することが予想されている地球温暖化を緩和させるためには、その原因の一つとなる化石燃料の使用を抑制する必要がある。今後、化石燃料の使用を抑制しながら、水産物を国民に安定的に供給するためには、水産業をどのように行うのがよいと考えられるか、160字以内で説明しなさい。



年

年

図1. 北海道、宮城県、茨城県、静岡県、長崎県におけるさんまとぶり類の漁獲量の推移
 出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」の「長期累年」（2022）に基づき作成



図2. のり類，わかめ類，こんぶ類の養殖生産量の推移

出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」の「長期累年」（2022）に基づき作成